優秀賞　〈高学年の部〉

母の笑顔と手

千葉県　鎌ケ谷市立道野辺小学校 六年
松本 龍輝

ぼくのお母さんの手は、きれいにマニキュアがぬられてるわけでもなく、キズがないわけでもなく、毎日ハンドクリームをぬっているのに、すごくあれています。でも、ぼくはお母さんのそんな手が大好きです。

お母さんは、家の中の仕事をするだけではなく、夜遅くから朝ぼく達が起きるまで、コンビニで働いてくれてます。

お母さんの手は、仕事中に段ボール箱で切ったあとや、フライヤーでやけどしたあとなどがあり、キズが増えるたびに、今日もぼく達のために、一生けん命働いてくれたんだと、ぼくは思います。だから、ぼく達のために頑張ってくれている母の手が大好きです。そして、その手で頭をなでてくれたり、だきしめてもらうと、とても心地よく安心します。

お母さんは、どんな時でも笑顔でいます。

仕事から帰宅して、ぼく達を学校に送り出してから、今度は家の中での仕事をして、やっとねれます。ねるのも、四時間位で、ぼく達が学校から帰宅すると、また家の中の仕事をします。すごくつかれているはずなのに、母はいつも笑顔で

「おはよう・行ってらっしゃい・お帰り・おやすみ」を言ってくれます。母は、どんなに自分がしんどくても、いつも笑顔を見せてくれます。

例えば、お兄ちゃんを出産する時も母子ともに危険な状態で、きん急帝王切開になった時も、すごく痛かったはずなのに、どの写真も笑顔でいるし、具合が悪くてしんどい時も、笑顔で

「大丈夫だよ」と言ってくれます。ぼくはそんな頑張り屋のお母さんの笑顔が、本当に大丈夫なのか少し心配になるけど、大好きです。

ぼくのお母さんは、少し変わっています。ぼくが注意をされて泣いてしまうと、

「だれが悪い？自分が悪い時は、泣かない。」

「女の子のなみだは武器になるけど、男の子のなみだは、大切な人が亡くなった時まで流さない」

「学校も勉強も嫌なら、行かなくてもしなくてもいい」

「友達は、たくさん作らなくてもいい」

「勉強がよくできるよりも、人に思いやりを持ち、礼儀作法がちゃんと出来る方がいい」

など、他の人は子どもに、こんな事を言わないんじゃないかと思うことを言う。ぼくのお母さんは少し変わっているが、どの言葉も、ぼくの心にひびいています。

ぼくは、お母さんの手も言葉も歌声も、全部好きです。つまり、お母さんが大好きです。お母さん、いつもありがとう。これからもよろしくお願いします。